

ほたるの里だより

八千代市ほたるの里づくり実行委員会 第76号 2025年3月



ほたるの里の木（冬）



- ① タチヤナギ ② シダレヤナギ ③ ウワミズザクラ ④ イヌザクラ
⑤ ハンノキ ⑥ ウメ ⑦ エノキ ⑧ ネコヤナギ

※この里だよりは 令和6年度 ちば環境再生基金助成金（県民の活動）を頂き作成しました。

トンボ池（かいぼり）作業とおやこ生き物探検隊～トンボ池の中を見てみよう～

11月9日（土）11：00～12：00

ホタルメイト 深澤 一郎

トンボ池には1年で約20cm程のヘドロが溜まり、毎年11月頃にかいぼりをして取り除いています。かいぼりは3時間程かけて池の水を抜き、大きい柄杓でヘドロをすくいバケツに入れ、人海戦術で事前に掘っておいた穴に運びます。そして水を抜いている間に小魚やオタマジャクシ、水生昆虫等を捕獲して水槽に避難させます。

おやこ生き物探検隊（9家族19名）も開催し、参加した子ども達は、大きなドジョウを手でつかんだりクサガメを手にして撫でたり、時々歓声を上げたりの大はしゃぎでした。

ミナミヌマエビは1網すくうと数匹も捕れました。アメリカザリガニを駆除してきた結果、天敵が少なくなり大量に繁殖したのではないかと考えられます。小魚ではカダヤシ・クチボソ（モツゴ）・タモロコ・ドジョウが見られましたが、タイリクバラタナゴはここ数年見られなくなりました。

ウシガエルのオタマジャクシは大量に、クサガメ、水生昆虫はヤゴ・ミズカマキリ等が見られました。

子ども達の生き物への関心は非常に高く、おやこ生き物探検隊は大いに役立っているように思えました。本来なら池に入って生物捕獲やヘドロすくいを体験できれば良いのですが、池の底はコンクリートのすり鉢型で滑りやすく、水を抜くとはいえ、こども用の長靴では水が入ってしまい実施は困難な状況です。

かいぼりを終えてトンボ池はスッキリした感じになりました。



（クサガメを観察する探検隊）

おやこ生き物探検隊 ～冬の生き物 何がいるのか探してみよう～

2月8日（土）10：00～11：20

広報部

晴天でしたが強い北風の中、参加者は、2家族6名と講師および里の整備に参加のホタルメイト15名でした。整備作業を早めに終了し、全員での探検隊体験は初めてでした。

福士講師作の「生き物探しビンゴカード」を持ちながらの探検です。3歳の「生き物大好き！」のお子さんは、早速落ち葉をかき分けながら、土の中にいるダンゴムシなどをみつけ、寒さなんか気にしない！と元気いっぱい楽しく探検していました。幼稚園児と小学生の兄弟も水路の中のザリガニやアブラゼミの抜け殻などを見つけ、生き生きしていました。里の中では、落ち葉の中を探している姿があちこちで見られました。

クビキリギスも隠れていたのが見つかりました。ニホンアカガエルの卵塊は、この日はまだ見つかりませんでした。今後に期待したいですね。

一番盛り上がったのは、落ち葉の中で丸々と太ったカブトムシの幼虫です。子どもたちは、手に載せて大きさを実感します。冬にもみられる「ガ」のお話も聞き、いろいろな生き物がすんでいることを知りました。ビンゴカードをもとに発見した生き物報告をしました。「大人になったら、発見することが少ないと感じた」と参加者から感想がありました。北風に負けない子どもたちの姿に、元気をもらいました！



11月9日（土）のほたるの里での親子生き物探検隊でのことです。

トンボ池にはスジエビがたくさんいたのですが、スジエビが減り、代わりにヌマエビの仲間がどっと増えたのでびっくりしました。ヌマエビの仲間の分類は難しく、種類調べは二の足を踏んでいたのですが、山崎保正さんが送ってくれた額角の画像に触発されて、重い腰をあげました。

エビの仲間は頭に出っ張っている角のような「額角（がくかく）」の違い（特にのこぎりの歯のような棘部分）の様子で見分けることが多いようです。その棘（きょく）の様子からはじめは外来種のシナヌマエビかと思いましたが、額角だけではなく背中模様から、シナヌマエビに最も近いミナミヌマエビ（ヌマエビ科カワリヌマエビ属）であることが分かりました。本来のミナミヌマエビの生息環境（静岡以西、琵琶湖以南）ではありませんが、ペットショップ等でアクアリウム用に売られており、それを誰かがトンボ池に放流したものと思われます。

トンボ池の水系の元は地下水なので、魚やエビなど大型の生き物を豊かにするには人為的に移入が必要です。移入するにしても本来この地域に生息している生き物に限るべきでしょう。その点ではミナミヌマエビは困りものです。しかし移入した当初は爆発的に増えても、時間がたつにつれて減少・衰退し、そのうちにいなくなるかもしれません。今後どうなるか注視したいですね。



ミナミヌマエビの
額角部分



ミナミヌマエビの
背中模様

島田谷津周辺野鳥調査に参加して

松尾 昌泰

2025年2月12日（水）に「ヤマトミクリの里づくり協議会」主催の野鳥調査に参加しました（講師を含め参加者10名）。集合時の朝は空気が冷たく寒かったが、次第に南風で暖くなり、絶好の観察日和でした。ルートは、やちよ農業交流センターを出発して島田谷津に入り、よく整備された「むつみの森」を通り、富士美橋を経由しての新川沿いのコースでした。

最近、自宅や近所でスズメの姿や鳴き声を聞かなくなり、野鳥が少なくなったと感じています。野鳥調査の開始直後はほとんど鳥を見かけず、どうなる事かと心配でしたが、それでも25種類307羽（去年は33種336羽）の野鳥を楽しく観察できました。去年の調査で見かけた猛禽類のトビ、ノスリ、チョウゲンボウは全く見られず、またキセキレイやキクイタダキも見られませんでした。

また水鳥では昨年見られたカルガモ、コガモ、バンは見られず、オオバン、カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウだけでした。

モズは昨年1羽しか見られませんでしたでしたが今年は7羽も、しかもかなり近くで見られ感動しました。更に、富士美橋から農業交流センターへの新川沿いでは、カワセミが私たちの歩調に合わせて「見て！見て！」とでもいうように、何回も美しい姿を見せてくれ、参加者全員が感動しました。



里の整備作業（11月～2月）

15 陸の豊かさも
守ろう



（11月）トンボ池かいぼり



（2月）杭打ち ノスリ→



里からのお知らせ・・・

◆2024市民活動フェスティバル 参加出展しました。

11月10日（日）10：00より勝田台文化センターのホールで開催され、当実行委員会も参加しました。当日は団体紹介パネルを来場者の方に見てもらい説明と案内を行いました。演者も含め20団体との交流を深める場になりました。参加団体は昨年より多く、250名（主催者報告）以上の来場者がありました。ほたるの里づくり実行委員会は、4名で対応しました。



◆ボランティアカフェ開催・・・ほたるの里づくり実行委員会も参加します。

日時：令和7年3月29日 10時～14時30分

場所：八千代市福祉センター（市役所隣）第3・第4会議室

主催：八千代市ボランティア・市民活動推進センター、八千代市社会福祉協議会、ボランティアカフェ実行委員会

対象：ボランティアに興味のある市民 参加費：無料

◆ほたるの里づくり実行委員会 第28回総会案内

日時：2025年4月12日（土）10：00～11：30

会場：八千代市市民会館 第4会議室（3階）

所在地：八千代市萱田町728

内容：令和6年度事業報告・収支決算

令和7年度事業計画・予算案

参加対象：ホタルメイト ほたるの里に関心のある方

★総会終了後、おやこ生き物探検隊で講師を担当していただいている、山崎保正氏より、ほたるの里で撮影された生き物の写真の紹介とお話をさせていただきます。

私たちが出会っていない生き物などを知る機会です。



〔編集後記〕

2025年も3月に入りました。例年に無い寒い冬のことで、豪雪のニュースが流れました。南関東は雨も少なく、積雪もありませんでした。四季の変化が見えづらくなり、生き物にも対応が厳しい環境になりつつある中で、知恵を出しながら、生き物が住みやすい環境づくりに取り組みます！（広報部）

〔ほたるの里 連絡先〕

八千代市ほたるの里づくり実行委員会事務局

〒276-8501 八千代市大和田新田 312-5

八千代市 環境政策課 ゼロカーボンシティ推進室内

Tel：047-421-6767

E-mail：kankyoku1@city.yachiyo.chiba.jp

HP：https://www.city.yachiyo.lg.jp/soshiki/40/3728.html

【編集】広報部会・事務局